

予報期間 9月12日から9月18日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 14日は、低気圧が発達しながらサハリン付近に進み、低気圧からのびる前線が北海道付近に進む。別の前線が日本の東から東北地方を通して対馬海峡付近にのびる。
- 15日は、発達した低気圧がオホーツク海を東へ進む。前線は南下して日本の東から東北南部付近を通して西日本日本海側にのびる。
- 16日から18日にかけて、高気圧が北日本から千島の東へ移動し、前線が日本の東から西日本付近に停滞する。

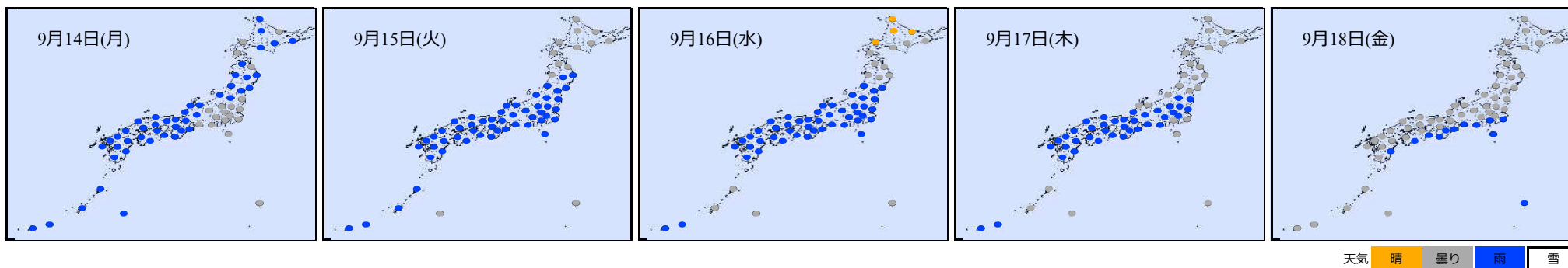
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 14日頃は、東日本日本海側を中心に、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

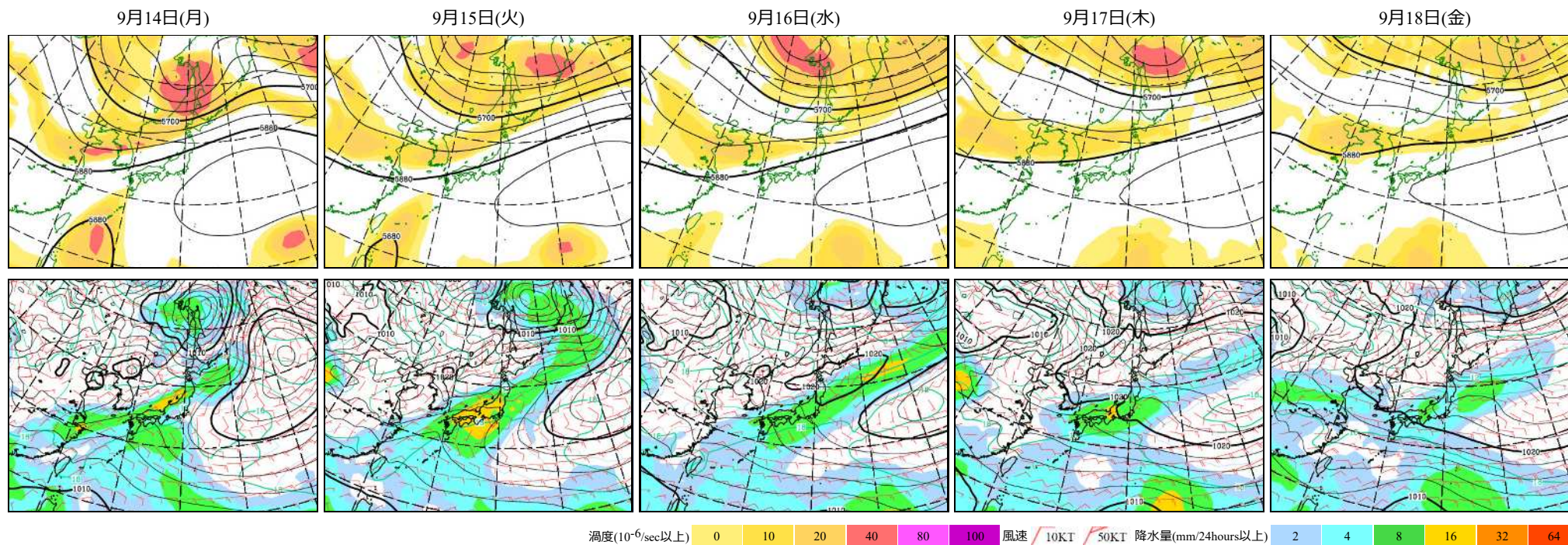
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

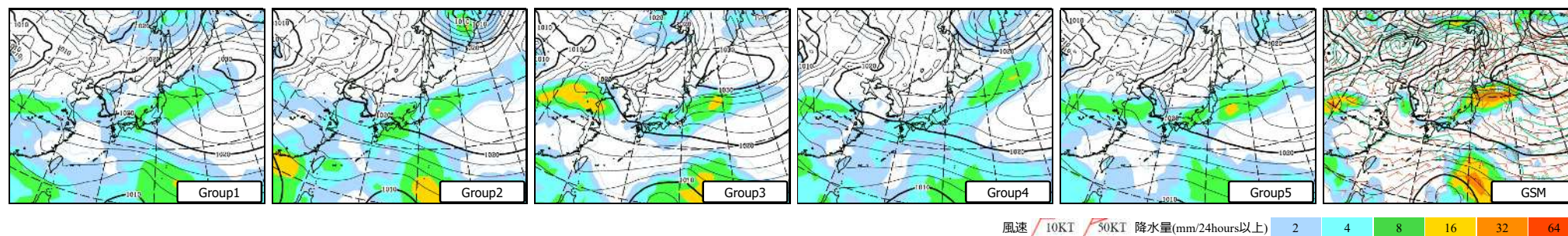


- 北海道地方は、曇りや晴れの日が多いが、14日は雨の降る所がある。
- 東北地方と東日本、西日本、沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月18日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、14日から15日に日本付近を東進する気圧の谷が深くなった。
- モデル間の差は小さいが、期間の終わり頃に北日本付近を東進する気圧の谷についてはばらつきが大きい。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わり頃は特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。